

美羽

とぶ

№16 31 VII, 1980

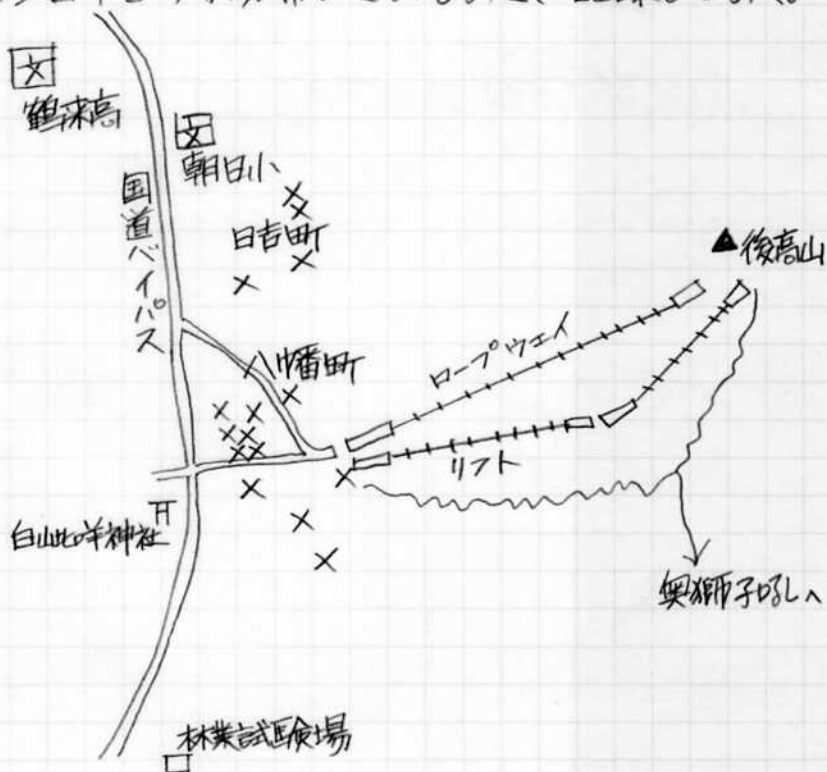
百万石蝶談会

HYAKUMANGOKU-TYODANKAI

鶴来町八幡町のウスバシロチョウ

吉村 久實

ウスバシロチョウは、加賀地方低山帯に広く分布すると考えられているが、筆者は高度時代より当地によく採集に行き、この近辺にも広くウスバシロチョウが分布しているのを、記録しておく。



時期は5月中旬がよく、5月末には汚染した♀が多い。(筆者の通った金大付高は、例年5月31日が、大学の開学記念日のため休みで、新入会員の吉岡氏と何度が採集に行った。)
鶴来バイパスから、交差点を左に折れてすぐの鶴来高校築うら

の葉の花畑には、無数のウスバシロチョウが群れ、バニンジミ・サカハチチョウ・スジグロシロチョウ等も見られる。また日吉町の方にもかなりの個体数が見られる。

データ

1976-V-31	約 30 匹	吉村久貴・吉岡 泉 採
1979-V-29	2 匹	吉村久貴 採
1980-V-18	27 匹 2 匹	吉村久貴 採

また、1980.5.18には同行した諸道氏も何頭が写真に収められた。

板屋谷でアサギマダラを採集

吉村 久貴

1980年5月19日、河内村板屋不動滝より、奥に至る林道沿いでアサギマダラ1匹を採集した。アサギマダラは、白山系街道を除いて各地の個体数は少なく、いくつか記録され、筆者の知る限りでは、宝達山(嶋井氏)・石動山(山本順子女史)・医王山(野中氏・稲田女史)・犀川ダム(松井氏)と点々と広く分布している模様。諸道氏の説では、秋に系街道でかなりの個体の見られるため、県内で越冬しないのではないかという考えもあるらしいが、晩春の個体ということで、やはり当地土着と思われる。なお松井氏の採集個体も春型たそうである。

データ

1980-V-19 1匹 河内村板屋不動滝

雑録三題

野中 勝

1. 布瀬でクロコムラサキ採集

1979年7月8日、白山市、瀬でクロコムラサキ1匹を採集した。武藤(1)によれば、クロコムラサキは加賀地方でもこれまでに、布瀬・金沢市笠舞・長坂・中戸より記録されている。これらの地域でどの程度の頻度で黒色型が出現するのか興味がある。

2. 燈火にきたゼフィルス

1979年9月20日夜、Catocalaを求めて医王山スポーツセンターの蛍光灯をみまわったところ、シロシタバ、コシロシタバと共にジョウザンミドリシジミ1♀が壁に静止しているのをみつけ、採集した。蛾もゼフも共に汚損した個体であった。

3. スギタニルリシジミの新産地

県内で報告されている本種の産地は、六万山(1)・倉谷川(2)・金沢市舟津(3)のみであるが、1980年4月27日、江沼郡山中町真砂で1♂を採集したので報告する。当日は曇天で風が強く、他に数頭本種らしい蝶を目撃した。トチノキは真砂から奥の沢ぞいにかなり多く、好天に恵まれれば個体数も期待できるかもしれない。

参考文献

- (1) 武藤 明 (1971) 石川むしの会特別報告・オ2号
- (2) 松井 正人 (1978) 翔 No.1
- (3) 吉村 久貴 (1979) 翔 No.4

クロシジミ探索記

松井 正人

1978年、吉村久貴氏により石川県では珍しいクロシジミが金沢市上舟津発電所付近で採集された(*1)ので、記録をふやすべく(実はほしかった)クロシジミ採集行を3度行なったが、全国ボウズってしまい全くの敗北であったが、おもしろくないので、その折に見かけた蝶をここに載せる。

1回目、1979-Ⅶ-17 晴 13:00~15:00
オオミスジ 1♂目撃
ダイミョウセセリ 1ex "
ヒメウラナミジヤノメ 3exs "

2回目、1979-Ⅶ-2 晴 17:00~18:00
吉村氏の話に出くくるネムの木の花は駒帰では咲いているのだが、現地ではまだ、かわいいツボミである。ヒメジョオン・クサギの花が咲いている。
ミズイロオナガシジミ 1♀ 採集

オオタバネセセリ

1ex 目撃

3回目、1979-VIII-5 晴 12:00~13:00

最後の手段、吉村氏じきじきに案内を頼う。何とびつくり場所が違う。ここは見定が基山付近である。ここを捜せば良かったのか、しかしなんと、結局ボツ、ダメ、アウト!

ミヤマカラスアゲム	1♂	目撃
クロアゲム	1♀	〃
モンキアゲム	1ex	〃
テングチョウ	4exB	〃
キチョウ	多数	〃
ゴミスジ	多数	〃
イチモンジチョウ	1ex	〃
ミドリヒョウモン	2♂♂	〃
アカタテハ	数頭	〃
サカハチチョウ	数頭	〃
ルリンジミ	1♂1♀多数。	

1980年には必ず探るぞと思いつつ1979年は涙を飲んだのである。
(僕だけじゃないのよ)

*1. 吉村久貴(1978) 葦川上流のクロシジミ 翔2:4

医王山山塊のミヤマカラスアゲム

吉村 久貴

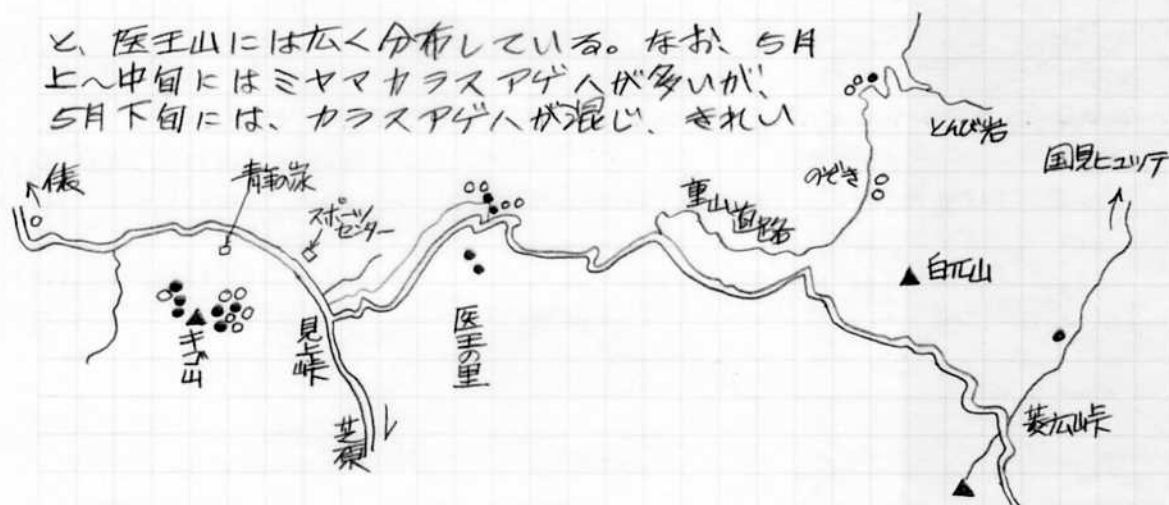
筆者は、非常にミヤマカラスアゲムが好きで、この蝶を追っているいろいろな場所を訪ねた。ミヤマカラスアゲムは食樹の関係から、やや山手に広く分布している。翔No.11の諸道氏もあげているが、横谷・又利ダム・赤津・日尾・見定の他、筆者の知るかぎりでは、医王山の金城・湯谷原・卯辰山・国見山・小原・坪野とその近辺とかなり広く、多く産するようである。一般に採集するには、吸木中が最も楽だし、尾根の占有行動中も採集チャンスである。

また早は、発生地、雑木林辺りに休止しているのがよく見られる。その中で筆者が、まずまずの成績を上げている医王山山塊のポイントをあげてみた。

湯谷原	1978-IV-中	目撃	道路で吸木
キゴ山山頂広場	1979-V-11	1♂	ややボロ

キゴ山山頂広場	1980-V-4	1♂	その他3~4頭目撃
	V-12	4♂♂	その他10頭ぐら目撃
	V-14	6♂♂	
医王の里近辺	1978-V-25	1♂	ヤマトロ、その他多数目撃
	1979-V-10	2♂♂	
	V-19	1♀	完品
重山道路	1978-V-下	1♂	その他多数目撃
菱山峠	1979-VII-5	1♂	

と、医王山には広く分布している。なお、5月上~中旬にはミヤマカラスアゲハが多いが、5月下旬には、カラスアゲハが混じり、きれい



なカラスアゲハとミヤマカラスアゲハのボロが、タニウツギの花で吸蜜している。5月上~中では、ミツバツツジが吸蜜源のようである。春型の後翅のエメラルド帯は、個体差が激しく、大きくてきれいなものは、一番細いものより倍ぐらいあって素晴らしい。夏型は全部白帯そう失で、白い点がかすかに残っている。夏型は2回でるのかは、まだわからない。また、後翅がエメラルド帯のはっきりした緑っぽい個体と、エメラルド帯がほとんど消え、群青~紫色のはっきり出る個体の2種類が採集された。はじめは♀が青紫をおびるのかと思ったが、本年(1980)5月12日、♂でも青色が出る個体を採集した。エメラルド帯の出る個体は、前翅もエメラルド帯であるが、青紫をおびる個体は、前翅は金色帯が出て、非常に変わった感じである。なお筆者は、春型をツツジの花、占有行動で採集するようにし、夏型は液木を狙う様になっているため、医王山山塊では春型の記録が多く、夏型の記録は、白尾などにある。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇
 <<産種募集中>> アサマシジミ特集・早月特集・オオヒカゲ特集などの種々の特集号を企画しています。こぞってペンを取りましょう。

蝶の飼育

諸道 秀人

これまでに80種前後の蝶の飼育を手がけたが、本年(1980)4~6月の間に飼育した蝶を紹介する。

1. シロオビアゲム

嵯峨井氏より依頼された本種の幼虫を、ウンシュウミカンを与え、飼育した。成長は非常に早く、3令・4令は各3日程度であった。なお、吉村氏は、半分をカラタチにより飼育したが、ウンシュウミカンを与えたものより4~5日成長が遅れている。

2. ミスジチョウ

3月下旬、倉ヶ嶽町内で採集した越冬幼虫を、コハウチワカエデにて飼育を行った。この蝶は越冬後、雨を飲込だけで脱皮し、食草は脱皮まで食べないという性質を持つ。

よって雨の日にしづくの多くついた食草に巣をつけてやると、自ら水を飲み、休眠に入る。脱皮後は、飼育は容易。

黒薙谷カミキリ採集記

松井 正人

1979年9月16日、富山県宇奈月町黒薙谷で、サワグルミの生木(直径10cm~50cm)と並りに落ちていたカレ木(直径約5cm)あわせて約15本(長さ約30cm)を日当りのよい歩道脇に積んで置き、翌日それらを調べたところ、次のようなカミキリが採れた。

ハンノキカミキリ	2exs	シラホシカミキリ	4exs
オオアオカミキリ	2令令	十がゴマフカミキリ	1令

1日で、これだけ集まるものかと、びっくりした次第である。

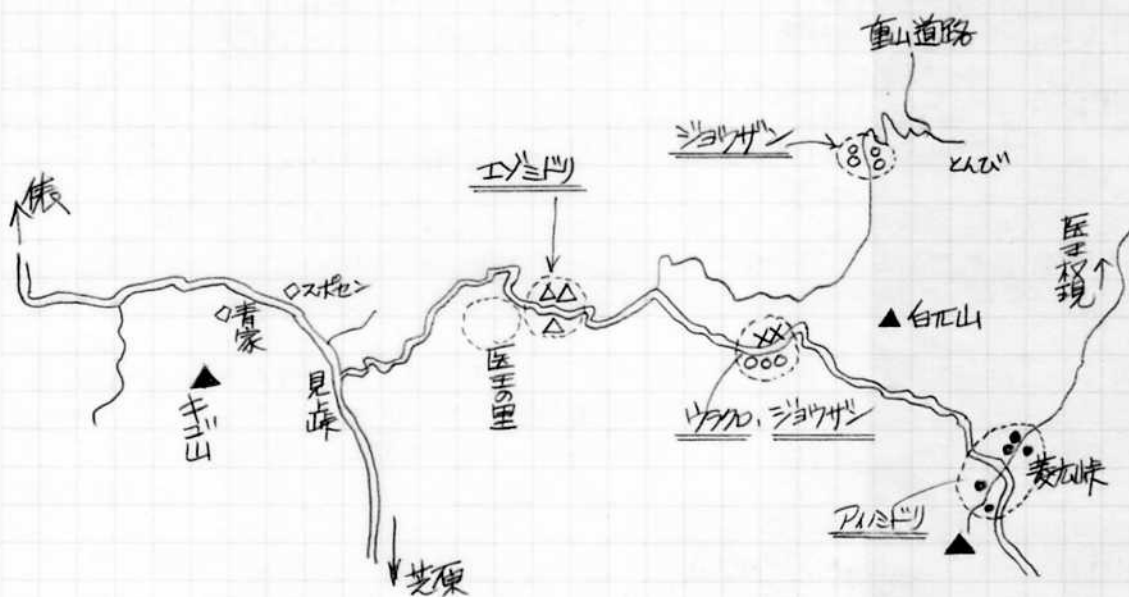
Zephyrusの活動時間の違いについて

吉村 久貴

Zephyrus採集中に気付いたこと(いろいろな本にも出ているが)であるが、種によって活動時間が違うということである。ここでは何頭もの、主に令令が発光に飛ぶ時間を、活動時間とする。

活動時間帯は激しく飛び回り、なかなか捕まらないが、いるかいないかわからず木の枝をたたくまわりのりは、採集が楽であるように思う。筆者としては、すべての種の活動時間帯を確認したわけではないので、次にあげるものだけにする。なお、主として医王山付近で Zeph をとっているので、目撃の採集地点は医王山が主。

	種名	時間帯	活動状況	目撃地
✓	ウラナミアカシジミ	夕刻	高い木の樹冠を飛び回る	舟石
×	ウラクロシジミ	夕刻	低い路上を飛び回る	医王山林道
●	アイノミドリシジミ	午前中	ミズナラの樹冠	菱松峠
△	エゾミドリシジミ	夕刻	"	医王山林道
○	シウザンミドリシジミ	午前中	"	山道路



- まず、医王山のウラクロシジミ
1918-VII-2 夕刻、林道の土を、合合が白い翅をちらちらさせながら飛んでいるのを確認。2羽採集、その他何頭か目撃。
- アイノミドリ
朝、8:00~10:00 合合が激しく樹冠を飛び回り、断折、葉上で休止。1918-VII-2 3羽採集 1919-VII-4~5 22羽採集
その他多数目撃。
- エゾミドリ
夕刻、医王の里より300~400m行った右側の代採されたところの左側、激しく飛んでは追飛して、すぐ休止する。

1978-VII-1 2ヶ所採集、1978-VII-2 5ヶ所採集

○ジョウザンミドリ
 重山道路をのぞきよりやや大池へ下ったところ、午前中9:00
 ~12:00 陽の当たるところで、何十匹ものジョウザンが吹きだ
 まりのように追飛していた。1978-VII-9 30cm以上の追飛
 目撃。なお、ジョウザンミドリは朝7:00頃は、ススキの葉上で
 休止していた。(医王山林道)

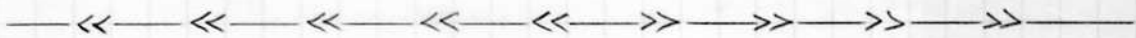
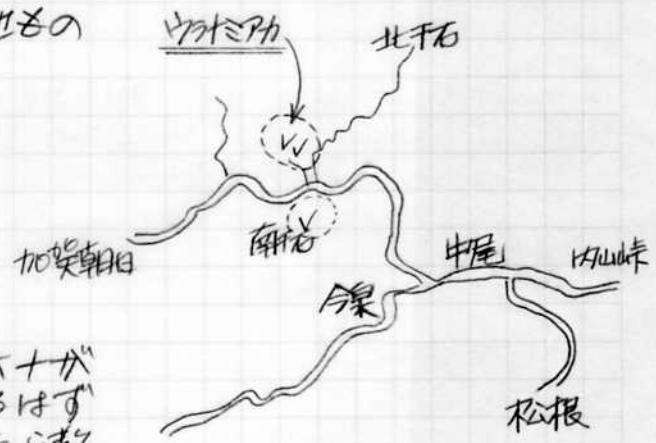
○ウラナミアカシジミ
 本種は、嶋根氏により森本~傾利伽羅の山塊に広く分布し
 ていることが判明しているが、筆者が訪ずれた夕刻には、激し
 く横暴を飛び回り、クマギが大きすぎて、クマの竿でも、とっ
 ても、とっても届きませんでした。1979-VII-中、

といったところですが、その他の

- | | |
|------------|----|
| アカシジミ | 夕刻 |
| オナガシジミ | 夕刻 |
| ジョウセンアカシジミ | 夕刻 |
| メスアカシジミ | 午後 |
| クロミドリ | 夕刻 |

があげられます。

ウスイロオナガ・ミズイロオナガ
 など医王山で見ている人もいます
 ですから、活動期間がわかったら教
 えて下さい。



《会員の動き・しやばの動き》

5月18日(日)、諸道・吉村アゲハコンビは、ミヤマカラスを採る
 (撮る)べく河内村板尾へ。それを横目に身ながら、バンゴレは
 鶴来町坂尻~風吹峠にかけてミンゾ掃除をし、13頭のマヤコブをひろ
 って、御満悦であった。(遅れてる存一)

5月19日(月)、松井氏は、仕事のひたわら、田鶴浜~羽咋間に
 オオヒカゲの幼虫を数頭発見した。詳細は、オオヒカゲ特集号にて
 発表します。

5月24日(土)、野中カミキラーは、白山釈迦道へカエデすくいに。ついでに途中のガレ場でイワオウギを20株ばかり調査したが、苦勞のかいも無く、アサマの姿は見れなかった。

嵯峨井・松井日陰族は、5月25日(日)、羽咋市～中島町を走り、スゲ類をアサリにアサった。結果はいたるところにオオヒカゲ、オオヒカゲで、石川県に稀なる種も一変して普通種に下落してしまた。その後2人は、どこへ行ってもスゲが目につき、スゲ病になってしまった。

5月26日(月)、野中勝氏、2世誕生。みごと1合であった。花(みつる)と命名された。

5月6月7月と採集に関しては、ピークに達している。いっしょか土曜毎に、土曜サロンが自然に開かれ、夜中まで頼の住宅地をにぎわしている。竹谷キヤスター目く。このところ例会がないので情報不足で困っている、月1回は会合を開けといっている。

富山県昆虫同好会よりAMICA vol18が発行された。当会発行の「新」より、井村・金平・嵯峨井・松井・野中・吉村の報文が富山県関係参考文献として取りあげられている。

しばらくハ木橋氏の姿が見えなかったが、身体の調子が悪く、養生していたらしい。それでもギフチョウの飼育に暇がなかったらしく、誰でも一度は味わったことのある、カンアオイ地獄をモロにうけたとか。

6月1日(日)、吉村曹長の引きいる一個連茶(諸道・吉岡・嵯峨井・野中・松井初年兵)は、富山県早月川上流を急襲し、まんまとリカエテスをせしめた。レカレハ路軍(?)が焼き討ちした後で、〇〇〇の姿はあまり見れなかった。

早月の怪。立山川上流にて吉村・吉岡氏によりオオクモツキならぬツマベニチョウ1合を目撃した。当日は怪(快)晴で、まさに驚きの一日であった。

6月上旬、かねて工事中の井村私邸新築落成。新居に似っかわい標本が沢山出たらしく、興味のあるかたは、ドイツ箱などを持ってきてかけつけるといい。あふ出るくらいのムシをくれるぞーな。

ディスクの金平君は、ディスクを返すべく弁明をした。6月現在、まだ1回しか行ってないそうだ。

嵯峨井¹¹翔編集人は、公私とも多忙で、このところペンを取るヒマがなく、翔の原稿がたまる一方で困っている。

住友信託銀行ロビーで、伊藤忠情掃K.Kは、東南アジアの蝶展を6/1~6/30迄開催中である。好評により7月15日迄、延期されたとか？(読者新聞評)

6月14日(土)、15日(日)、竹谷キャメラマンは、オオミスジを撮影すべく、小原へ出かけ、ようやくF5.6におさめた。それを聞きつけ、次の週にモロム氏もカメラをかついで小原へ、レガレ1夜目撃しただけで、シャッターチャンスはなかったとか。

6月15日(日)、松井仕掛人は、白山岩間の奥を探索し、数頭のアサマを手中にした。食草は、ちゃんとミヤマタニワタシでもタニワタシでもなくイワオウギであったとか。市、類周辺のイワオウギも気になりますな。 <嵯峨井記>

目 次

鶴来断八幡断のウスバシロチョウ	吉村久貴	1
板屋岩でアサギマダラを採集	吉村久貴	2
雑録三題	野中 勝	2
クロシジミ探索記	松井 正人	3
医王山山塊のミヤマカラスアゲム	吉村久貴	4
蝶の飼育	諸道 秀人	6
黒薙后カミキリ採集記	松井 正人	6
Zephyrusの活動時間の違いについて	吉村久貴	6
会員の動き・しゃほの動き		8

翔 № 16

1980年 7月 31日(木)

発行：金沢市三口新町4-9-34 松井正人方

編集・校正：百石石蝶談会
嵯峨井 淳郎